

令和4年度 秋田県県北地区介護支援専門員協会第1回研修会

開催日：令和4年8月6日（土曜日）

形式：ハイブリッド形式で開催。会場：秋田しらかみ看護学院（能代市）

テーマ：「ケアマネの記録術～対人援助専門職の実践の過程の可視化～」

講師：青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科 葛西 孝幸氏

参加者：会場 20名・オンライン 81名

今回は会場とオンライン参加を合わせて101名が受講。青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科の葛西孝幸助教が講師を務め「ケアマネの記録術～対人援助専門職の実践の過程の可視化～」をテーマに研修会を開催しました。

記録の目的として①対人援助職の支援内容を書き記すこと、②情報の共有、③サービスの適正化、④支援内容を選択するに至った判断基準を明らかにする等が挙げられ、「目に見えないサービスだからこそ根拠となる記録が重要」との指摘がありました。

また、モニタリング記録を作成する際、根拠となる支援経過記録にはケアマネジャーの評価の視点や判断を記載し、どう考え何を伝えたのかアセスメントと介入を残すことが重要であることや5W1H（誰が・何を・いつ・どこで・なぜ・どのように）を意識するなど要点を押さえて省力化を図るようにアドバイスがありました。生活支援記録法（F-SOAIP）の手法を講義とグループワークを通して学ぶことにより、参加者は介護サービス利用者らの訴えや状況、課題、ケアマネジャーの評価や支援した内容などを記録するそもそもの目的を振り返り、日々の業務で作成している記録の役割や重要性を改めて認識する機会になりました。

